

二次保健医療圏について

群馬県健康福部医務課

保健医療圏について

医療圏の種類

都道府県は、医療計画の中で、**病院の病床及び診療所の病床の整備を図るべき地域的単位**として区分する医療圏を定めることとされている

① 一次保健医療圏

県民の日常生活に密着した保健サービスの提供と、プライマリー・ケアを行う為の基礎的な圏域。**市町村**を単位として設定。

② 二次保健医療圏

病床の管理：一般病床、療養病床

高度・特殊な医療を除く**一般的な入院医療及び比較的専門性の高い保健医療サービスの提供と確保を行う圏域**。地理的条件等の自然条件、交通事情等の社会条件等を考慮して設定。

③ 三次保健医療圏

病床の管理：精神病床、結核病床、感染症病床

高度な医療、特殊な医療など、広域的に実施すべきサービスの提供と確保を行う圏域。**都道府県単位**（北海道のみ6つ）。

群馬県独自

※二. 五次保健医療圏

4 疾病及び周産期医療、小児医療において設定している圏域を現行の**二次保健医療圏よりも広域で対応する圏域**として位置づけ。

二次保健医療圏に関する根拠規定等（抜粋）

医療計画策定指針（現行計画策定時）

2 医療圏の設定方法

- **人口規模が20万人未満**の二次医療圏については、入院に係る医療を提供する一体の区域として成り立っていないと考えられる場合（特に、**流入患者割合が20%未満**であり、**流出患者割合が20%以上**である場合）、その**設定の見直しについて検討**する。なお、設定の見直しを検討する際は、**二次医療圏の面積**や**基幹となる病院までのアクセスの時間**等も考慮することが必要である。
- また、設定を変更しない場合には、その考え方を明記するとともに、医療の需給状況の改善に向けた具体的な検討を行うこと。
- 既存の圏域、すなわち、**広域市町村圏、保健所・福祉事務所等都道府県の行政機関の管轄区域、学区（特に高等学校に係る区域）**等に関する資料を参考とする。
- 地域医療構想調整区域に二次医療圏を合わせることが適当であること。
- **5疾病・5事業及び在宅医療のそれぞれに係る医療連携体制**を構築する際の圏域については、**従来の二次医療圏に拘らず、患者の移動状況や地域の医療資源等の実情に応じて弾力的に設定**する。

現行の二次保健医療圏

計 **10** 圏域

- 前橋
- 渋川
- 伊勢崎
- 高崎・安中
- 藤岡
- 富岡
- 吾妻
- 沼田
- 桐生
- 太田・館林



これまでの経緯

期	策定年月	圏域数	医療圏の設定・見直しの議論など
第1次	1988 (S63) 年6月	10圏域	当時の広域市町村圏を単位として、二次保健医療圏を設定
第2次	1993 (H5) 年7月	10圏域	
第3次	1998 (H10) 年3月	10圏域	
第4次	2000 (H12) 年3月	10圏域	
第5次	2005 (H17) 年3月	10圏域	
第6次	2010 (H22) 年3月	10圏域	二次保健医療圏の見直し（5圏域への広域化）を検討 ⇒ 二次保健医療圏は10圏域のままとし、疾病や事業により「二・五次保健医療圏」を設定
第7次	2015 (H27) 7年3月	10圏域	国が定める見直し基準（トリプル20）に該当する圏域なし
第8次 (現行)	2018 (H30) 年4月	10圏域	国が定める見直し基準（トリプル20）に該当する圏域なし ⇒ 全圏域で「現行の圏域が望ましい」の意見

※ トリプル20

国が示す二次医療圏の見直しに関する基準。以下のいずれにも該当する場合が見直しの目安

➤ 人口規模 20万人未満、流入入院患者割合 20%未満、流出入院患者割合 20%以上

現行の二.五次保健医療圏

医療の高度化・専門化や病院勤務医の不足等を背景として、特に急性期医療を必要とする分野において、現行の二次医療圏より広い範囲で対応する必要が高まっています。

本県では、脳卒中や周産期医療など**4疾病2事業**で設定した圏域を、二次保健医療圏より広域であることから「**二.五次保健医療圏**」として位置づけ、医療連携体制のための基本的な枠組みとしています。

二次保健医療圏	二.五次保健医療圏					
	疾病				事業	
	脳卒中	心筋梗塞等の 心血管疾患	糖尿病	がん	周産期	小児
高崎・安中保健医療圏 (高崎市・安中市)	西部圏域				西毛圏域	
藤岡保健医療圏 (藤岡市・上野村・神流町)						
富岡保健医療圏 (富岡市・下仁田町・南牧村・甘楽町)						
桐生保健医療圏 (桐生市・みどり市)	東部・伊勢崎圏域		東部圏域		東毛圏域	
太田・館林保健医療圏 (太田市・館林市・板倉町・明和町・千代田町・大泉町・邑楽町)						
伊勢崎保健医療圏 (伊勢崎市・玉村町)						
前橋保健医療圏 (前橋市)	中部圏域				中毛圏域	
渋川保健医療圏 (渋川市・榛東村・吉岡町)						
吾妻保健医療圏 (中之条町・長野原町・嬭恋村・草津町・高山村・東吾妻町)						
沼田保健医療圏 (沼田市・片品村・川場村・昭和村・みなかみ町)	利根沼田圏域				北部圏域	
北毛圏域						
県計	5圏域				4圏域	

第9次保健医療計画における 二次保健医療圏について

検討の必要性と現状

検討の必要性

第9次県保健医療計画（2024年度～）の策定に向けて、現在の二次保健医療圏の持続可能性など、あり方を改めて検討する必要。

二次保健医療圏の現状

- ① 産科・小児科を維持できない病院が増加
- ② 圏域を越えた救急搬送が常態化
- ③ 圏域外の病院に入院する患者が増加
- ④ 医師の働き方改革（2024年度～）により、群大等による医師派遣が一層困難になるおそれ



二次保健医療圏に関する意見

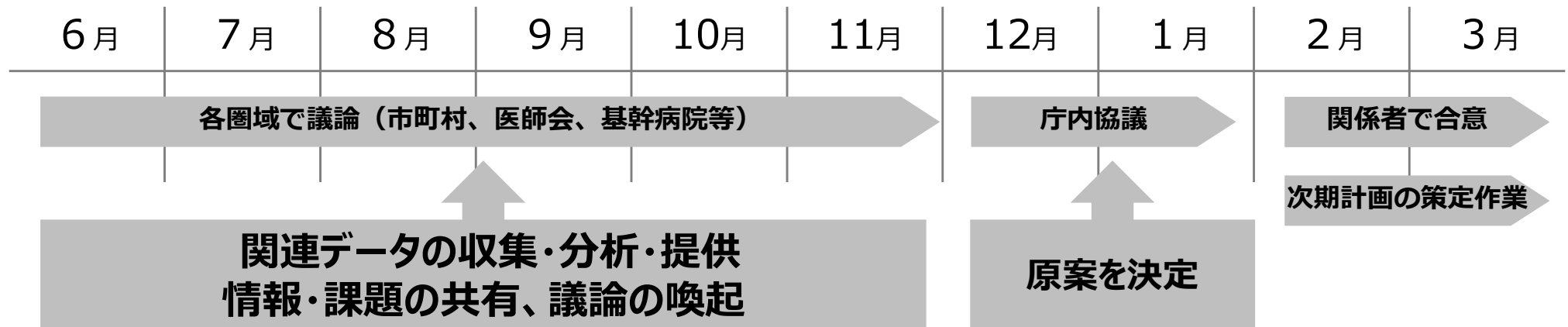
- ✓ 「人口減少、患者動向、今後の医療資源の分布を考えると、再編・集約化を検討すべき。」
 - ✓ 「特定の医療機関に機能や人材が集約され、今の診療科を維持できない病院が出てくる。」
- ⇒ **意見が分かれる難しい課題だが、次期保健医療計画策定に向け、議論を尽くす必要**

議論の進め方

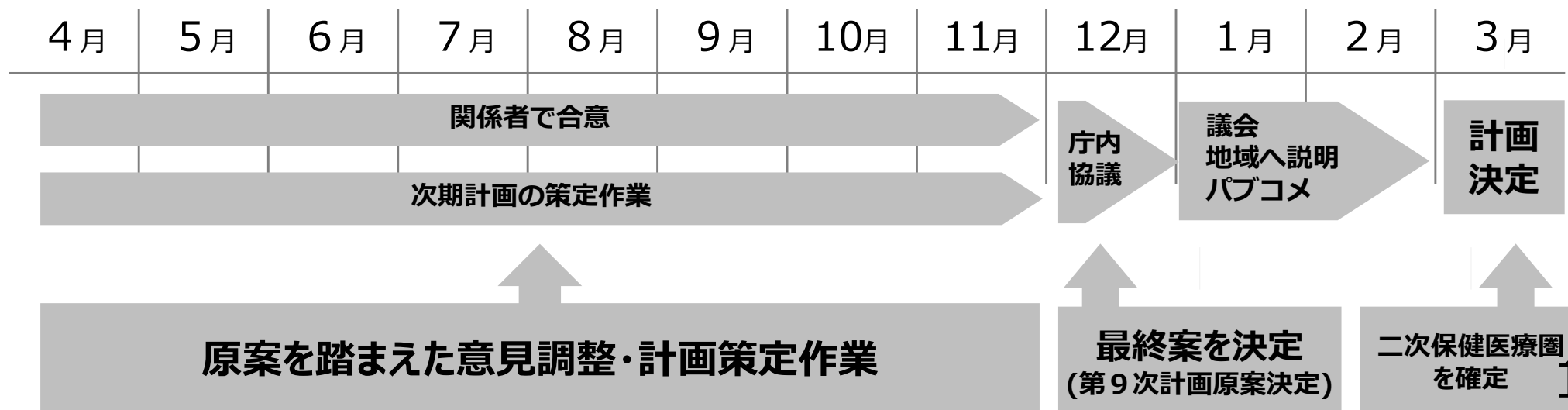
- ① 客観的なデータに基づき、**まずは各圏域において議論することから始める。**
- ② 県は、関連データを収集・分析し、各圏域へ提供し、情報・課題の共有を図る。
- ③ その上で、各圏域の考えを尊重しつつ、9次計画の二次保健医療圏を決定する。

今後のスケジュール

<令和4年度：今後の二次保健医療圏の原案を決定>



<令和5年度：二次保健医療圏の原案を踏まえ、次期保健医療計画を決定>



二次保健医療圏検討資料 (関連データの分析)

**基本情報
(人口・面積の概況)**

近隣の都道府県の概況（人口、面積、圏域数）

	人口		面積		二次医療圏域数		1圏域あたり人口		1圏域あたり面積	
	数	順位	km ²	順位	数	順位	数	順位	km ²	順位
全国	126,146,099	-	377,974.63	-	335	-	376,555.5	-	1,128.3	-
福島県	1,833,152	21	13784.14	3	6	26	305,525.3	20	2,297.4	3
茨城県	2,867,009	11	6097.24	24	9	9	318,556.6	17	677.5	33
栃木県	1,933,146	19	6408.09	20	6	26	322,191.0	16	1,068.0	19
群馬県	1,939,110	18	6362.28	21	10	5	193,911.0	33	636.2	35
埼玉県	7,344,765	5	3797.75	39	10	5	734,476.5	4	379.8	44
千葉県	6,284,480	6	5157.31	28	9	9	698,275.6	5	573.0	38
東京都	14,047,594	1	2194.05	45	13	2	1,080,584.2	2	168.8	47
神奈川県	9,237,337	2	2416.11	43	9	9	1,026,370.8	3	268.5	45
新潟県	2,201,272	15	12583.95	5	7	20	314,467.4	19	1,797.7	6
山梨県	809,974	42	4465.27	32	4	37	202,493.5	31	1,116.3	17
長野県	2,048,011	16	13561.56	4	10	5	204,801.1	30	1,356.2	14
静岡県	3,633,202	10	7777.28	13	8	14	454,150.3	9	972.2	26

（出典）

人口：令和2年国勢調査（令和2年10月1日時点の人口）


面積：国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（令和3年10月時点）

※ 順位は各数値を大きい順に並べたものを、医務課にて付番した

本県の二次保健医療圏の概況（人口・面積）

二次医療圏名	人口（人）	順位	面積（km ² ）	順位
前橋	332,149	127	312	279
渋川	110,589	240	289	284
伊勢崎	247,904	151	165	316
高崎・安中	427,880	98	735	188
藤岡	66,034	283	477	238
富岡	68,124	280	489	235
吾妻	51,619	307	1,279	98
沼田	76,958	268	1,766	52
桐生	156,093	198	483	237
太田・館林	401,760	104	369	265

<参考>
 全国の二次保健医療圏総数：335
 平均人口（全二次保健医療圏）：376,556人
 平均面積（全二次保健医療圏）：1,113km²
 (出典)
 人口：令和2年国勢調査（令和2年10月1日時点の人口）
 面積：国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（令和3年10月時点）※ 順位は各数値を大きい順に並べたものを、医務課にて付番した

 : 下位33%に該当

患者流出入の状況

出典：令和3年 群馬県患者調査

- ◆ 県内の病院及び有床診療所を利用する入院患者について、その傷病の種類、受療動向等の実態を把握
- ◆ 本稿では、県内二次保健医療圏別の入院患者の自足率、流出率及び流入率を分析している（一般病床・療養病床のみ）

【用語解説】

自足率・・・圏域内に居住する患者のうち、同圏域内の医療機関にかかった割合
(自足率 = 100 - 流出率)

流出率・・・圏域内に居住する患者のうち、他圏域の医療機関にかかった割合。

流入率・・・圏域内の医療機関にかかった患者のうち、他圏域に居住する患者の割合。

人口・入院患者流出入の状況

<令和3年>

	前橋	渋川	伊勢崎	高崎 ・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田 ・館林
人口(人)	332,149	110,589	247,904	427,880	66,034	68,124	51,619	76,958	156,093	401,760
入院患者流出率	23.9%	42.0%	28.1%	22.8%	31.8%	30.1%	35.5%	19.7%	19.6%	18.6%
入院患者流入率	43.6%	46.7%	30.7%	25.5%	44.5%	28.5%	35.1%	14.6%	21.2%	23.7%

<平成27年>

	前橋	渋川	伊勢崎	高崎 ・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田 ・館林
人口(人)	336,199	113,850	245,491	429,280	68,907	72,583	56,413	83,446	165,702	401,605
入院患者流出率	23.3%	47.5%	25.4%	22.2%	28.8%	18.6%	28.5%	17.8%	16.9%	16.7%
入院患者流入率	43.0%	40.2%	32.8%	26.1%	45.0%	24.6%	28.7%	16.5%	17.8%	24.7%

<増減 (R3対H27) >

	前橋	渋川	伊勢崎	高崎 ・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田 ・館林
人口(人)	-4,050	-3,261	2,413	-1,400	-2,873	-4,459	-4,794	-6,488	-9,609	155
入院患者流出率	0.7%	-5.5%	2.7%	0.5%	3.0%	11.5%	7.0%	1.8%	2.7%	1.9%
入院患者流入率	0.5%	6.5%	-2.1%	-0.5%	-0.5%	3.9%	6.5%	-1.9%	3.3%	-1.1%

(出典) 県患者調査 (H27及びR3)

 : 国が示す二次医療圏の見直し基準 (トリプル20) に該当

入院患者の流出状況（R3/H27）

<令和3年>

受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	23.9%	76.1%	5.0%	4.7%	10.9%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	1.7%	0.2%
渋川	42.0%	23.3%	58.0%	1.0%	11.9%	0.0%	0.0%	2.7%	2.8%	0.3%	0.0%
伊勢崎	28.1%	13.5%	2.0%	71.9%	5.0%	0.9%	0.0%	0.2%	0.1%	3.0%	3.4%
高崎・安中	22.8%	10.8%	2.2%	1.6%	77.2%	2.8%	3.7%	0.9%	0.4%	0.2%	0.1%
藤岡	31.8%	8.0%	2.4%	1.4%	16.7%	68.2%	2.4%	0.4%	0.0%	0.4%	0.2%
富岡	30.1%	5.4%	2.4%	0.7%	17.6%	2.8%	69.9%	0.2%	0.0%	0.7%	0.2%
吾妻	35.5%	9.5%	14.1%	0.2%	3.6%	0.0%	0.0%	64.5%	7.9%	0.0%	0.2%
沼田	19.7%	6.6%	7.2%	0.4%	1.7%	0.0%	0.0%	3.1%	80.3%	0.6%	0.1%
桐生	19.6%	7.6%	1.0%	4.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	80.4%	5.9%
太田・館林	18.6%	3.8%	1.1%	6.8%	0.9%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	5.6%	81.4%

<平成27年>

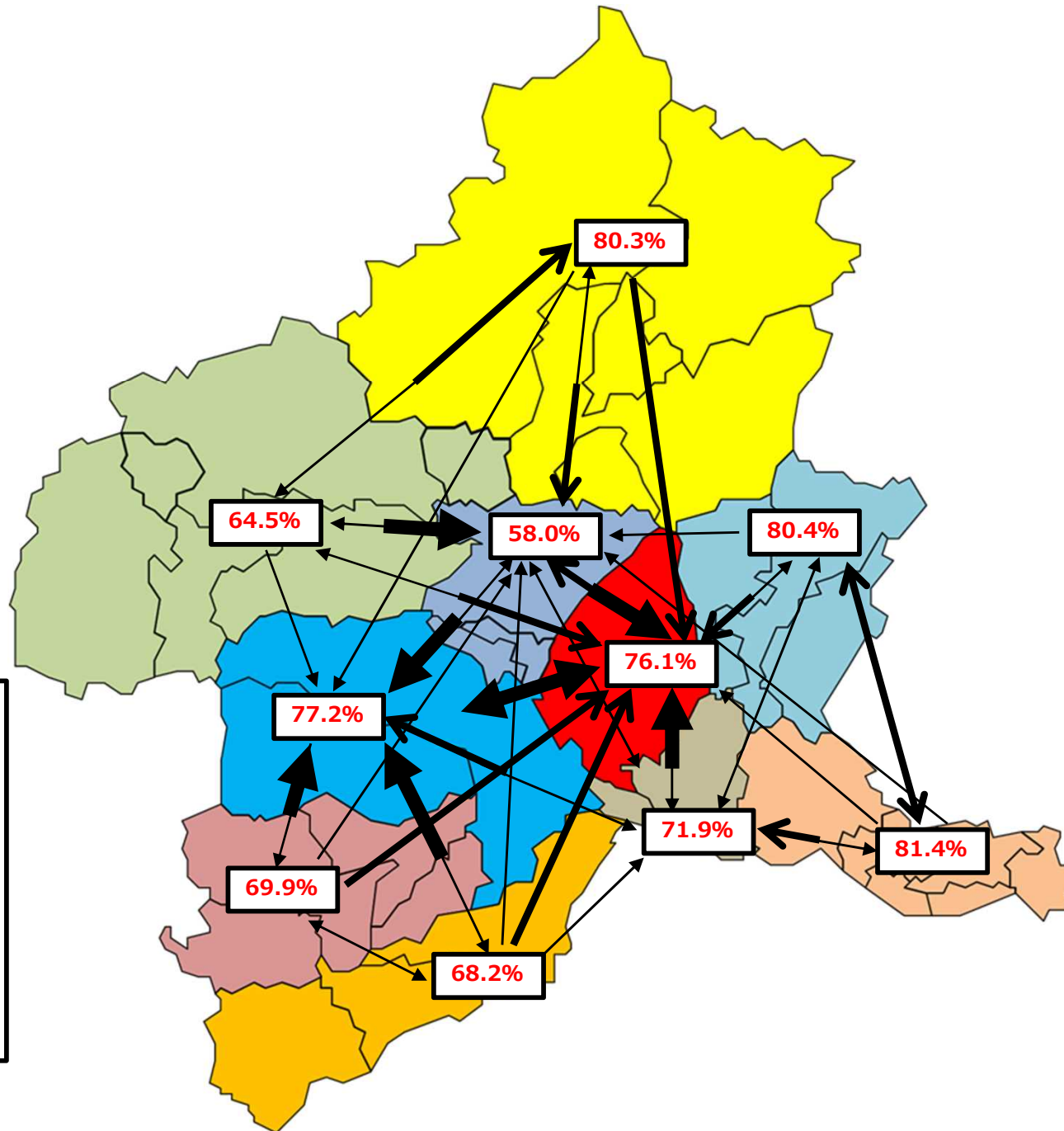
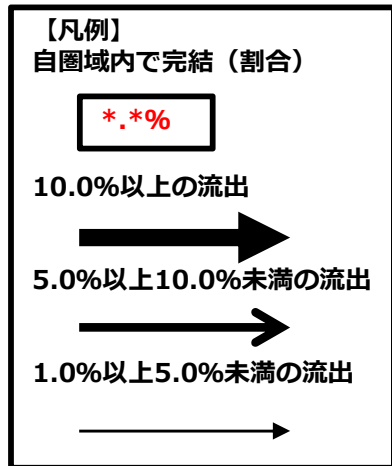
受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	23.3%	76.7%	4.5%	4.7%	10.5%	0.3%	0.3%	1.3%	0.3%	1.2%	0.2%
渋川	47.5%	26.6%	52.5%	1.5%	13.4%	0.1%	0.4%	3.5%	1.5%	0.4%	0.1%
伊勢崎	25.4%	10.2%	2.0%	74.6%	5.4%	0.8%	0.0%	0.5%	0.0%	2.7%	3.7%
高崎・安中	22.2%	10.7%	2.1%	1.3%	77.8%	3.1%	4.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.2%
藤岡	28.8%	5.0%	1.5%	1.7%	17.5%	71.2%	2.5%	0.2%	0.0%	0.3%	0.2%
富岡	18.6%	4.0%	1.0%	2.0%	9.1%	1.6%	81.4%	0.4%	0.1%	0.1%	0.1%
吾妻	28.5%	7.0%	7.9%	0.4%	5.0%	0.0%	0.3%	71.5%	7.3%	0.4%	0.1%
沼田	17.8%	6.1%	4.5%	0.8%	3.7%	0.0%	0.1%	2.6%	82.2%	0.1%	0.0%
桐生	16.9%	5.3%	0.6%	3.7%	1.6%	0.0%	0.1%	0.4%	0.0%	83.1%	5.2%
太田・館林	16.7%	2.5%	0.7%	8.2%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.6%	83.3%

（出典）県患者調査（H27及びR3）

※一般病床・療養病床の入院患者を対象（精神・感染症・結核病床を除外）

■：自足率（患者住所と受療地の二次保健医療圏が一致するもの）

入院患者の流出状況 (R3)



入院患者の流入状況（R3/H27）

<令和3年>

受療地 住所地	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
流入率	43.6%	46.7%	30.7%	25.5%	44.5%	28.5%	35.1%	14.6%	21.2%	23.7%
前橋	56.4%	10.6%	6.4%	7.6%	0.2%	0.0%	4.6%	0.7%	2.4%	0.2%
渋川	7.5%	53.3%	0.6%	3.6%	0.0%	0.0%	4.8%	3.0%	0.2%	0.0%
伊勢崎	7.1%	3.0%	69.3%	2.5%	2.3%	0.0%	0.6%	0.1%	3.0%	2.4%
高崎・安中	11.1%	6.6%	3.0%	74.5%	13.3%	24.3%	5.0%	1.5%	0.4%	0.1%
藤岡	1.4%	1.2%	0.5%	2.8%	55.5%	2.7%	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%
富岡	0.9%	1.1%	0.2%	2.7%	2.1%	71.5%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%
吾妻	1.7%	7.2%	0.1%	0.6%	0.0%	0.0%	64.9%	4.7%	0.0%	0.0%
沼田	2.1%	6.6%	0.3%	0.5%	0.0%	0.0%	5.6%	85.4%	0.3%	0.0%
桐生	3.9%	1.5%	3.7%	0.4%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	78.8%	4.0%
太田・館林	2.7%	2.2%	8.7%	0.6%	0.3%	0.2%	1.0%	0.0%	7.6%	76.3%
県外	5.1%	6.6%	7.4%	4.3%	26.4%	1.3%	12.2%	4.6%	6.9%	16.7%

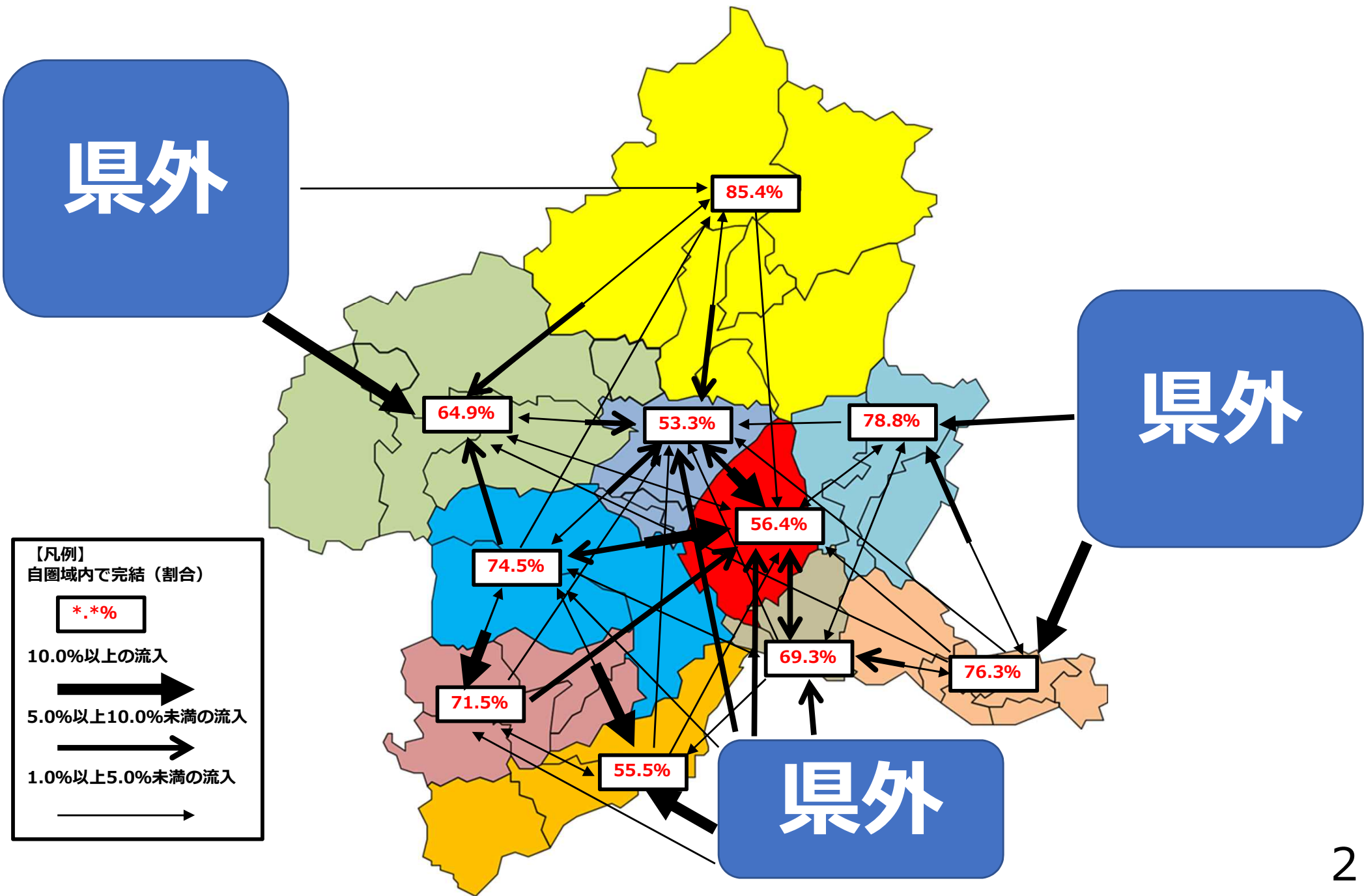
<平成27年>

受療地 住所地	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
流入率	43.0%	40.2%	32.8%	26.1%	45.0%	24.6%	28.7%	16.5%	17.8%	24.7%
前橋	57.0%	10.5%	5.6%	6.5%	0.8%	0.9%	4.2%	0.7%	1.7%	0.2%
渋川	9.6%	59.8%	0.9%	4.0%	0.1%	0.5%	5.4%	1.8%	0.3%	0.0%
伊勢崎	5.7%	3.6%	67.2%	2.5%	1.7%	0.0%	1.3%	0.0%	3.0%	2.4%
高崎・安中	12.2%	7.7%	2.5%	73.9%	13.2%	18.1%	1.7%	0.3%	0.3%	0.3%
藤岡	1.0%	1.0%	0.5%	3.0%	55.0%	2.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
富岡	1.0%	0.8%	0.8%	1.8%	1.4%	75.4%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%
吾妻	1.6%	5.9%	0.2%	1.0%	0.0%	0.3%	71.3%	5.7%	0.2%	0.0%
沼田	1.8%	4.3%	0.4%	0.9%	0.0%	0.1%	3.3%	83.5%	0.1%	0.0%
桐生	2.7%	1.0%	3.0%	0.7%	0.0%	0.1%	0.9%	0.0%	82.2%	3.0%
太田・館林	1.9%	1.7%	10.3%	0.4%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	7.0%	75.3%
県外	5.0%	3.3%	8.2%	4.4%	27.4%	2.5%	10.5%	6.9%	4.9%	18.4%

（出典）県患者調査（H27及びR3） ※一般病床・療養病床の入院患者を対象（精神・感染症・結核病床を除外）

：患者住所と受療地の二次保健医療圏が一致するもの

入院患者の流入状況 (R3)



地域医療支援病院の 対応状況

出典：令和3年 群馬県患者調査

- ◆ 県内の病院及び有床診療所を利用する入院患者について、その傷病の種類、受療動向等の実態を把握
- ◆ 本稿では、各地域医療支援病院における県内二次保健医療圏別の入院患者の流入率を分析している（一般病床・療養病床のみ）

【用語解説】

流入率・・・圏域内の医療機関にかかった患者のうち、他圏域に居住する患者の割合。

地域医療支援病院における入院患者の流入状況（R3）

<令和3年>

医療機関名称	患者所在地										
	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県外
① 前橋赤十字病院	64.1%	3.3%	10.7%	7.0%	0.9%	0.7%	1.5%	2.4%	2.6%	2.2%	4.8%
② 県立心臓血管センター	33.3%	3.4%	11.6%	8.2%	4.1%	1.4%	2.7%	3.4%	17.7%	7.5%	6.8%
③ 群馬県済生会前橋病院	40.3%	6.0%	6.5%	26.6%	4.0%	1.6%	1.2%	1.2%	6.5%	0.8%	5.2%
④ 地域医療機能推進機構群馬中央病院	60.6%	13.4%	3.5%	13.0%	0.4%	0.4%	1.7%	0.0%	1.3%	0.9%	4.8%
⑤ 国立病院機構渋川医療センター	6.2%	38.1%	3.7%	6.8%	1.5%	2.5%	10.2%	16.4%	1.9%	0.3%	12.4%
⑥ 伊勢崎佐波医師会病院	3.3%	0.0%	90.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.9%	1.6%
⑦ 伊勢崎市民病院	4.4%	0.3%	72.9%	1.2%	0.9%	0.3%	0.0%	0.3%	1.2%	4.4%	14.2%
⑧ 国立病院機構高崎総合医療センター	1.9%	1.9%	1.4%	83.1%	2.8%	3.3%	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	4.2%
⑨ 日高会日高病院	14.5%	5.9%	3.6%	67.0%	1.4%	1.4%	0.5%	1.4%	0.0%	1.4%	3.2%
⑩ 公立藤岡総合病院	0.0%	0.0%	3.6%	15.7%	44.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	33.9%
⑪ 桐生厚生総合病院	1.5%	0.3%	1.2%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	87.6%	6.1%	3.0%
⑫ SUBARU健康保険組合太田記念病院	0.0%	0.0%	3.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.2%	81.3%	6.7%
⑬ 公立館林厚生病院	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	92.2%	7.4%

（出典）県患者調査（R3） ※一般病床・療養病床の入院患者を対象（精神・感染症・結核病床を除外）

 : 患者住所と医療機関の二次保健医療圏が一致するもの

地域医療支援病院における入院患者の流入状況 (R3)

県外

県外

県外

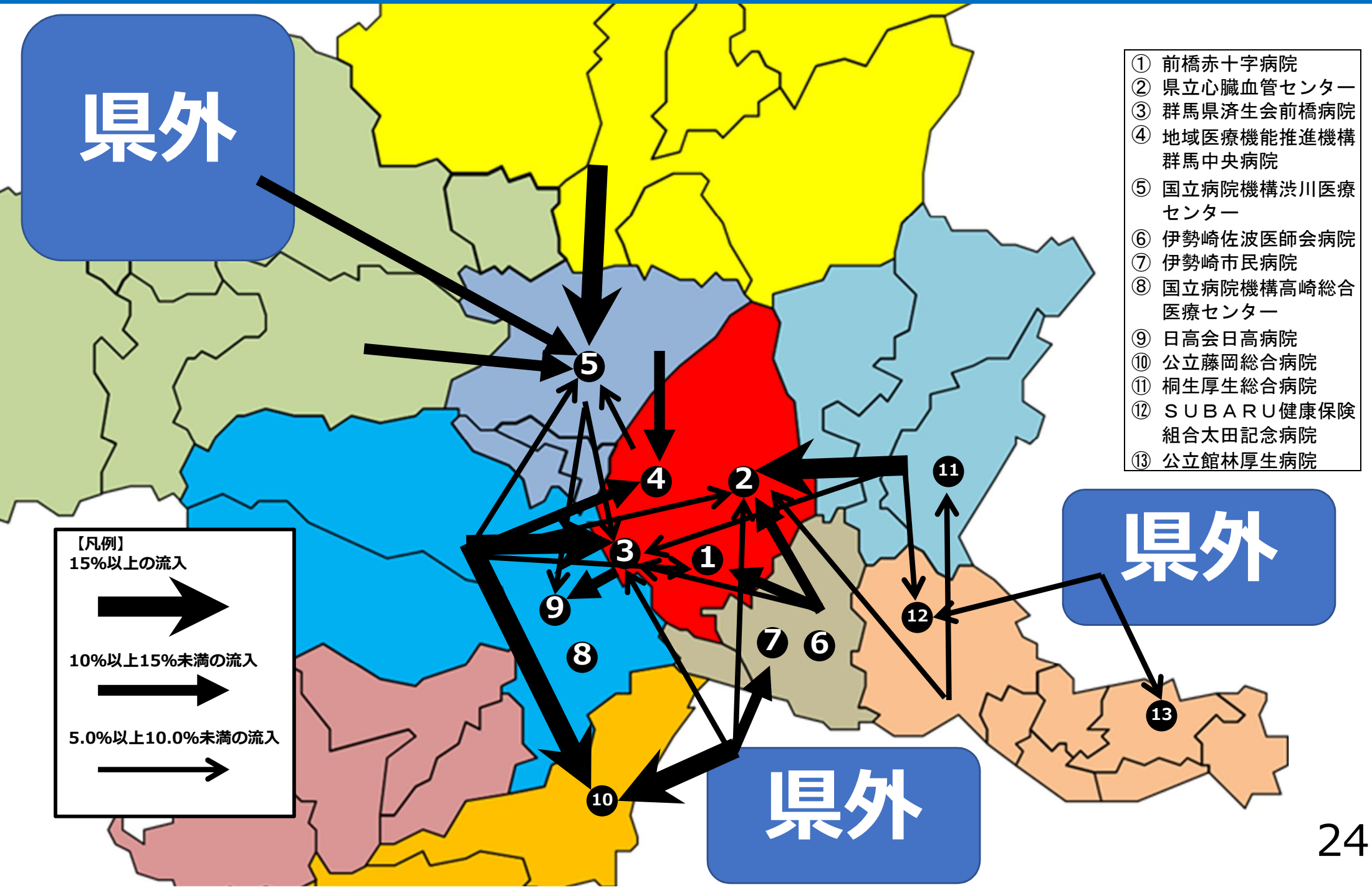
- ① 前橋赤十字病院
- ② 県立心臓血管センター
- ③ 群馬県済生会前橋病院
- ④ 地域医療機能推進機構 群馬中央病院
- ⑤ 国立病院機構渋川医療センター
- ⑥ 伊勢崎佐波医師会病院
- ⑦ 伊勢崎市民病院
- ⑧ 国立病院機構高崎総合医療センター
- ⑨ 日高会日高病院
- ⑩ 公立藤岡総合病院
- ⑪ 桐生厚生総合病院
- ⑫ SUBARU健康保険組合太田記念病院
- ⑬ 公立館林厚生病院

【凡例】

15%以上の流入

10%以上15%未満の流入

5.0%以上10.0%未満の流入



救急搬送の状況

出典：群馬県統合型医療情報システム

- ◆ 救急医療や災害時の救護活動などに必要な情報を24時間体制で総合的に収集し、提供するもの
- ◆ 本稿では、同システムに入力された情報から、消防機関別の搬送先（二次保健医療圏別）を分析している

救急搬送の状況（令和3年1～12月）

<搬送数>

(消防機関) (搬送先)	計 (不搬送等除く)	流出数	前橋	渋川	高崎・ 安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	伊勢崎	桐生	太田・ 館林	県外
前橋市消防局	14,537	1,603	12,934	272	687	14	4	7	14	524	53	14	14
渋川広域消防本部	4,525	1,429	1,079	3,096	152	1	0	10	169	4	7	3	4
高崎市等広域消防局	17,236	2,959	1,674	107	14,277	640	450	1	2	43	2	6	34
多野藤岡広域消防本部	3,817	1,169	134	7	530	2,648	456	0	0	32	1	0	9
富岡甘楽広域消防本部	2,533	449	64	20	217	141	2,084	0	0	4	0	1	2
吾妻広域消防本部	2,652	847	148	156	19	0	0	1,805	369	0	2	1	152
利根沼田広域消防本部	3,800	261	129	114	11	1	0	2	3,539	4	0	0	0
伊勢崎市消防本部	10,028	2,156	1,277	52	310	106	0	0	0	7,872	165	222	24
桐生市消防本部	6,007	963	299	18	5	0	0	0	1	110	5,044	408	122
太田市消防本部 ・館林地区消防組合消防本部	13,763	2,382	156	34	23	3	2	0	0	782	265	11,381	1,117

<割合>

(消防機関) (搬送先)	計 (不搬送等除く)	流出率	前橋	渋川	高崎・ 安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	伊勢崎	桐生	太田・ 館林	県外
前橋市消防局	100%	11.0%	89.0%	1.9%	4.7%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	3.6%	0.4%	0.1%	0.1%
渋川広域消防本部	100%	31.6%	23.8%	68.4%	3.4%	0.0%	0.0%	0.2%	3.7%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%
高崎市等広域消防局	100%	17.2%	9.7%	0.6%	82.8%	3.7%	2.6%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%
多野藤岡広域消防本部	100%	30.6%	3.5%	0.2%	13.9%	69.4%	11.9%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.2%
富岡甘楽広域消防本部	100%	17.7%	2.5%	0.8%	8.6%	5.6%	82.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%
吾妻広域消防本部	100%	31.9%	5.6%	5.9%	0.7%	0.0%	0.0%	68.1%	13.9%	0.0%	0.1%	0.0%	5.7%
利根沼田広域消防本部	100%	6.9%	3.4%	3.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%	93.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
伊勢崎市消防本部	100%	21.5%	12.7%	0.5%	3.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	78.5%	1.6%	2.2%	0.2%
桐生市消防本部	100%	16.0%	5.0%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	84.0%	6.8%	2.0%
太田市消防本部 ・館林地区消防組合消防本部	100%	17.3%	1.1%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%	1.9%	82.7%	8.1%

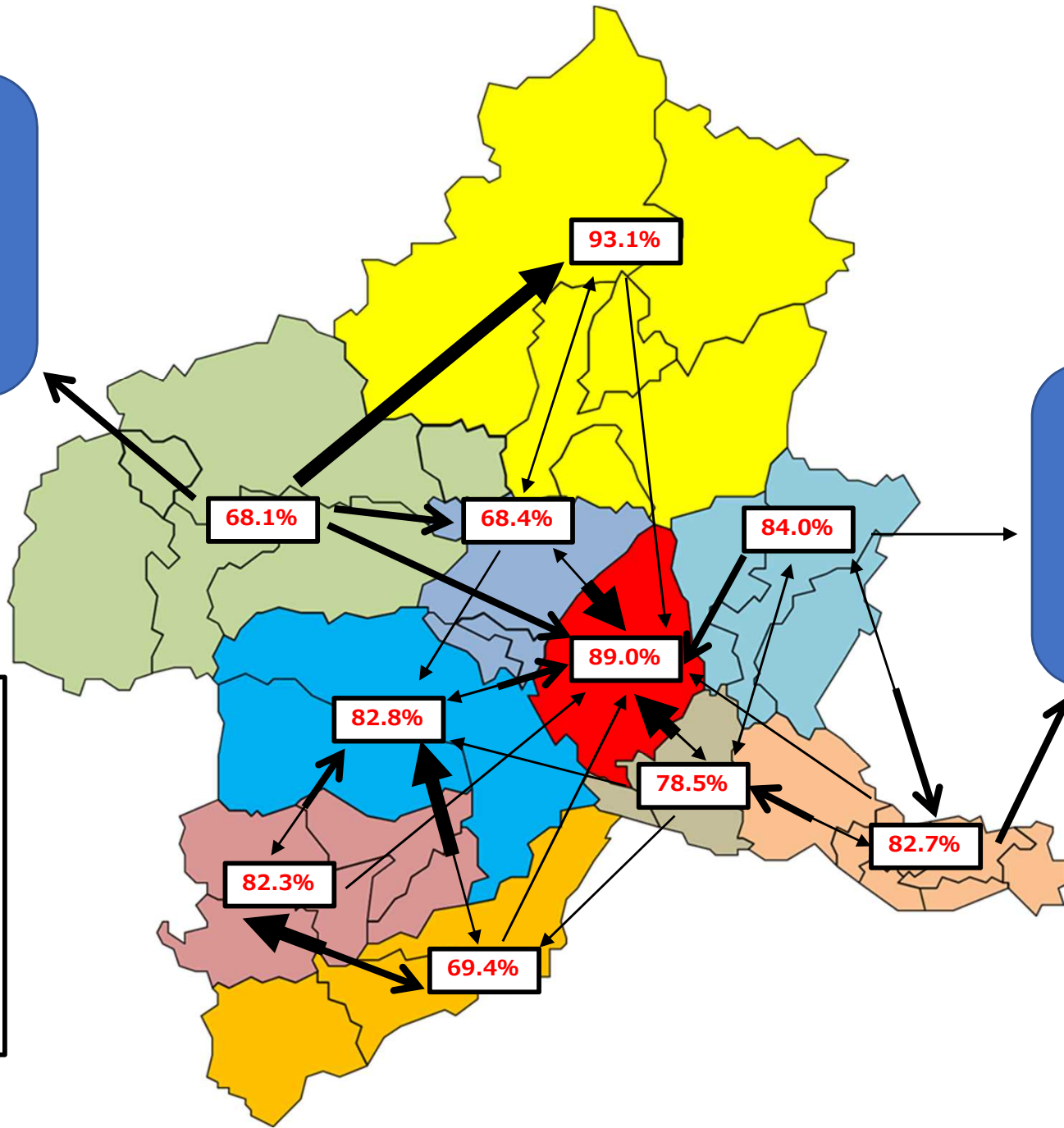
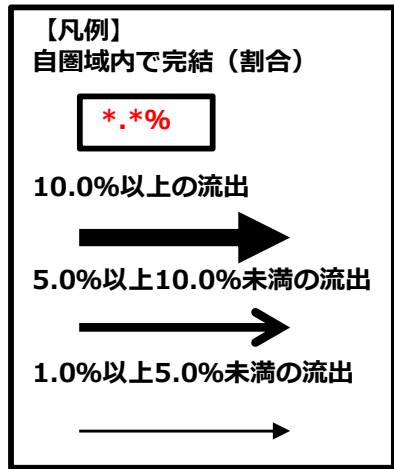
（出典）統合型医療情報システム

：消防機関と搬送先の二次保健医療圏が一致

救急搬送の状況（令和3年1～12月）

県外

県外



通勤・通学の状況 (社会的条件)

出典：国勢調査「従業地・通学地による人口・就業状態等集計」

- ◆ 国勢調査結果に基づき、従業地・通学地による人口の構成や現在住んでいる市区町村との関係を集計したもの
- ◆ 本稿では、二次保健医療圏別の通勤・通学先と住民常駐地をかけあわせ、流出入状況を分析している

通勤・通学の状況


<令和2年>

通勤・通学先 常駐地	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県外	不明
前橋	71.0%	3.1%	6.2%	9.8%	0.5%	0.2%	0.2%	0.4%	1.8%	1.5%	2.8%	2.4%
渋川	16.8%	61.4%	1.3%	10.5%	0.2%	0.2%	2.1%	2.2%	0.4%	0.4%	1.7%	2.9%
伊勢崎	9.7%	0.3%	63.7%	5.5%	1.0%	0.1%	0.0%	0.1%	3.0%	8.1%	4.9%	3.6%
高崎・安中	8.8%	1.4%	2.4%	73.8%	2.6%	2.8%	0.2%	0.2%	0.3%	0.5%	4.3%	2.9%
藤岡	4.4%	0.3%	3.6%	18.3%	60.0%	1.9%	0.0%	0.1%	0.2%	0.5%	9.4%	1.3%
富岡	2.1%	0.2%	0.6%	17.1%	1.9%	74.4%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	2.0%	1.3%
吾妻	2.7%	5.2%	0.2%	2.5%	0.0%	0.0%	85.0%	1.4%	0.1%	0.1%	1.5%	1.4%
沼田	2.8%	3.3%	0.2%	2.2%	0.0%	0.0%	1.2%	86.9%	0.1%	0.1%	1.3%	1.7%
桐生	4.3%	0.1%	7.3%	1.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	69.3%	10.5%	4.5%	2.7%
太田・館林	1.1%	0.0%	3.1%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	78.1%	11.5%	3.1%

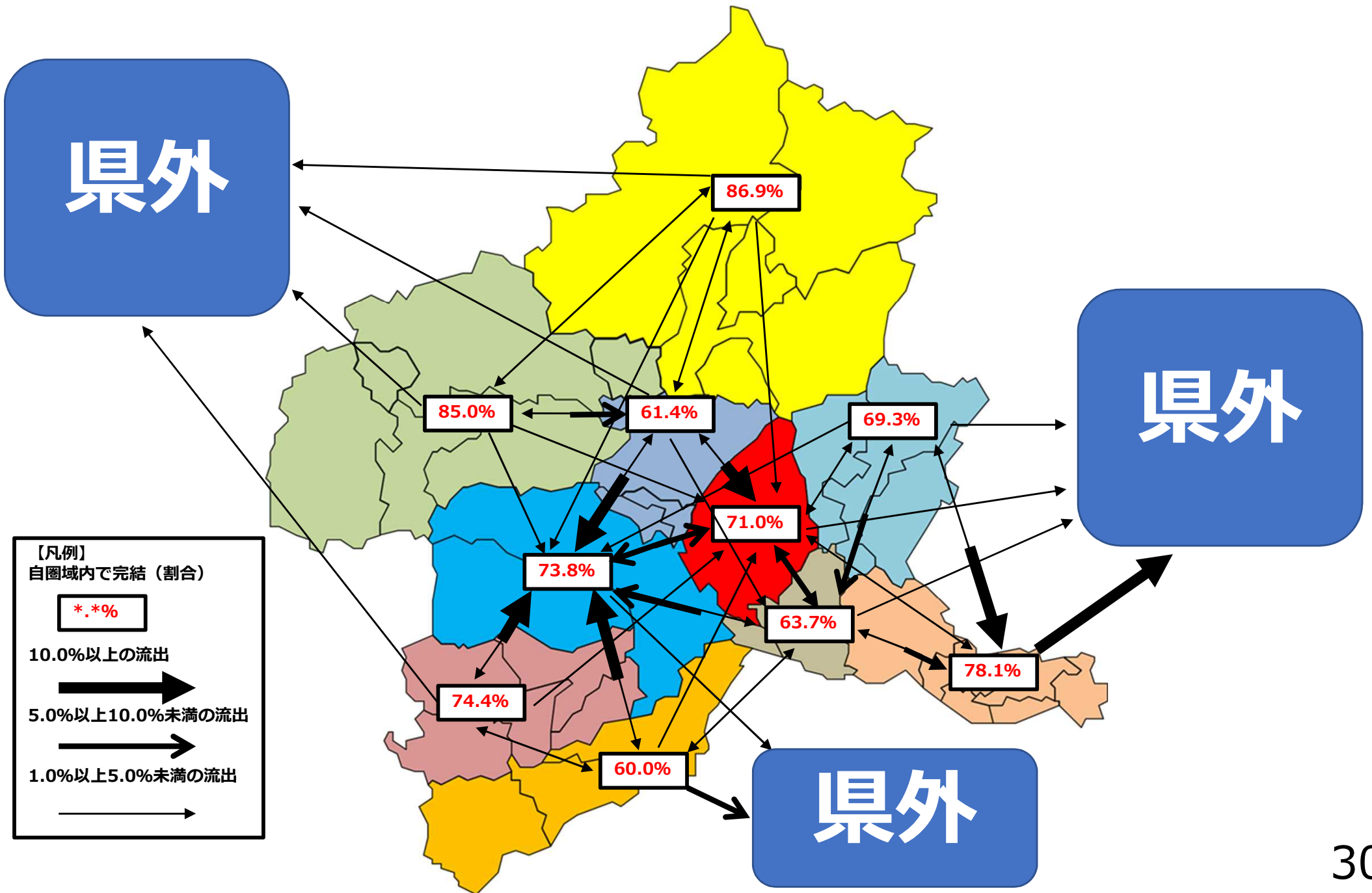
<平成27年>

通勤・通学先 常駐地	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県外	不明
前橋	63.7%	6.0%	7.5%	11.6%	1.0%	0.5%	0.5%	0.8%	2.2%	1.4%	2.3%	2.7%
渋川	10.9%	71.0%	0.7%	6.6%	0.2%	0.1%	3.6%	3.4%	0.2%	0.1%	0.8%	2.3%
伊勢崎	9.4%	0.6%	65.0%	4.5%	1.1%	0.2%	0.1%	0.1%	5.5%	5.8%	4.9%	2.8%
高崎・安中	7.8%	3.1%	3.6%	71.3%	3.2%	3.2%	0.3%	0.5%	0.5%	0.6%	3.8%	2.1%
藤岡	2.7%	0.4%	4.4%	18.5%	62.3%	2.6%	0.0%	0.1%	0.2%	0.4%	7.5%	0.9%
富岡	1.0%	0.3%	0.5%	17.6%	1.9%	75.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	1.6%	1.0%
吾妻	1.4%	4.9%	0.2%	1.6%	0.1%	0.1%	87.0%	1.9%	0.0%	0.1%	2.2%	0.6%
沼田	1.5%	3.0%	0.1%	0.8%	0.0%	0.0%	1.2%	91.2%	0.1%	0.0%	0.8%	1.2%
桐生	4.7%	0.3%	5.8%	0.8%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	75.0%	6.9%	4.3%	1.9%
太田・館林	1.2%	0.1%	5.0%	0.5%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	4.3%	71.9%	14.8%	2.0%

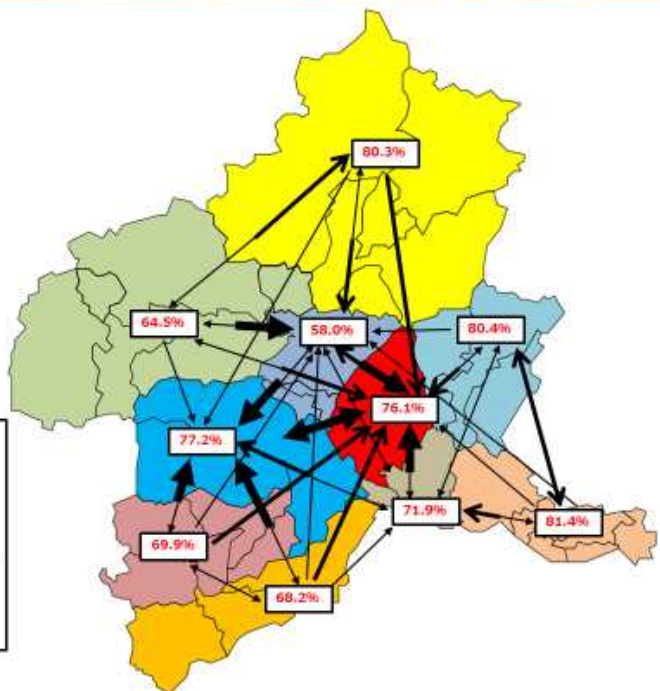
(出典) 平成27年・令和2年 国勢調査「従業地・通学地による人口・就業状態等集計」

 : 常駐地と通勤・通学先と常駐地の医療圏が一致

通勤・通学の状況 (R3)

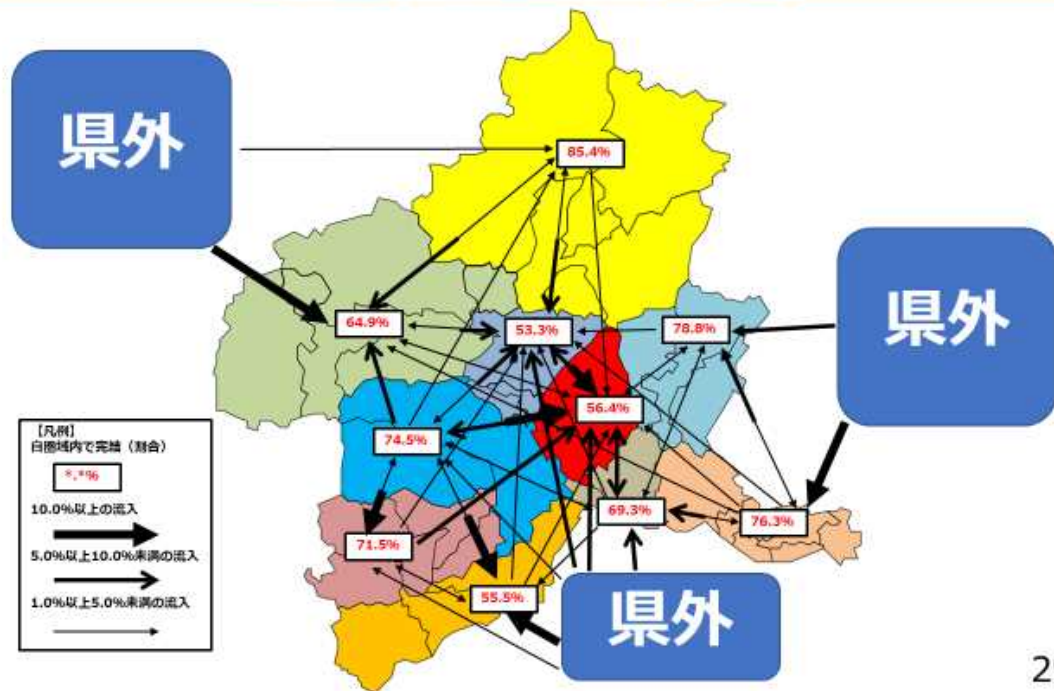


入院患者の流出状況 (R3)



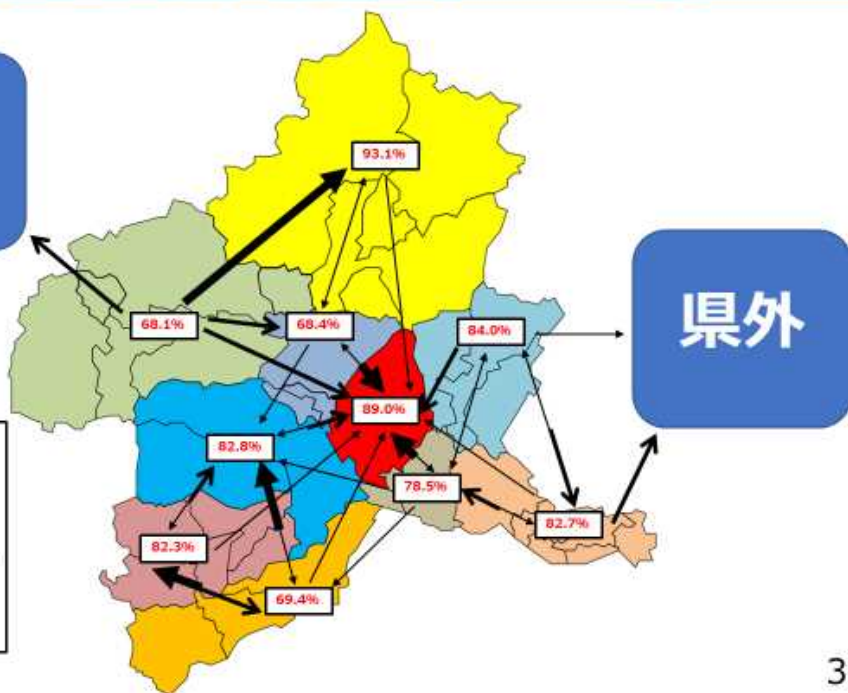
26

入院患者の流入状況 (R3)



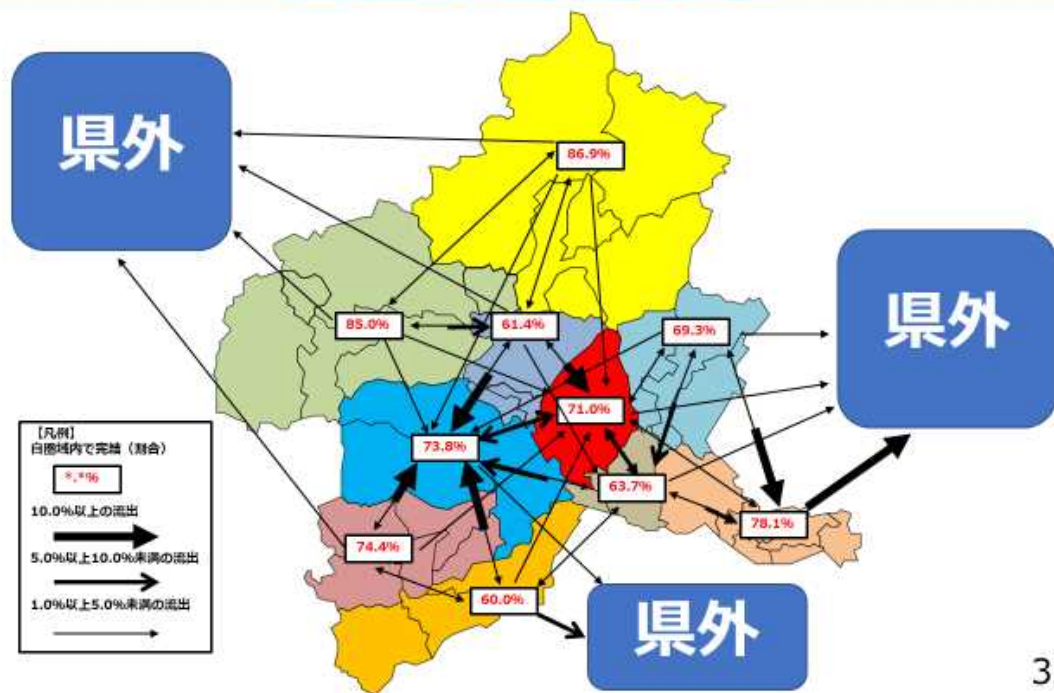
29

救急搬送の状況 (令和3年1~12月)



37

通勤・通学の状況 (R3)



32

- ◆ **全県的に、二次保健医療圏を越えた受療動向（入院患者の流出入）が顕在化**
- ◆ **入院患者の流出率は、過去（H27）と比較してほぼ全圏域で増加傾向**
- ◆ **二次保健医療圏を越えた救急搬送が常態化**

各圏域における意見

各圏域で実施したアンケート結果（まとめ）

令和4年度第1回地域保健医療対策協議会（6～7月開催）において、今後の二次保健医療圏のあり方に関するアンケートを実施

医療圏	課題が多く、 見直しを 検討する 必要がある	現状のままで 特段の 支障はない	どちらとも いえない	未回答
前橋	3	6	3	5
渋川	0	4	7	3
伊勢崎	3	5	7	0
高崎・安中	3	4	2	9
藤岡	1	5	2	10
富岡	3	8	4	0
吾妻	1	6	5	13
沼田	1	16	1	0
桐生	1	2	2	5
太田・館林	2	1	5	14

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

<前橋>

団体・役職	回答記録	回答（要旨）
前橋市長	見直検討	圏域を越えた救急搬送や入院患者が増加しており、統合を視野に検討する必要
前橋市医師会長	どちらとも	-
前橋市歯科医師会長	現状まま	-
前橋市薬剤師会長	現状まま	前橋は問題ない。県全体では見直す必要あるのでは。
群馬県病院協会理事	未回答	-
群馬県有床診療所協議会代表	どちらとも	人口規模20万人程度で二次医療圏を考えるべき。首長が納得できる見直し案を。
群馬県看護協会前橋地区理事	見直検討	地域病院の医療提供体制を整える必要もあるが、特定の病院への高度集約も必要。
前橋赤十字病院長	見直検討	患者流出入については、疾病別や時間帯別の分析も必要。
群馬県済生会前橋病院長	現状まま	集約した場合のメリット・デメリットが示されるべき
群馬中央病院長	現状まま	-
群馬県立心臓血管センター院長	未回答	-
公益財団法人老年病研究所附属病院長	現状まま	-
群馬大学医学部附属病院長	未回答	-
前橋市地区婦人会連絡協議会長	未回答	-
群馬県自動車販売健康保険組合 常務理事	未回答	-
前橋市保健所長	どちらとも	二. 五次保健医療圏を基本とした改編もありうるか。
前橋市消防局長	現状まま	-

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

<渋川>

団体・役職	回答記号	回答（要旨）
渋川市長	どちらとも-	
榛東村長	現状まま-	
吉岡町長	どちらとも	制度の内容が理解できていない。部会の中でしっかりと協議して頂きたい。
渋川地区医師会長	現状まま	二. 五次保健医療圏を活用しつつ、現行の県域が望ましい。
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター院長	どちらとも	二. 五次保健医療圏の再構築を要検討。 県が各医療圏の基幹病院の医師確保など診療機能充実を支援していくべき
北関東循環器病院副院長	未回答	-
渋川中央病院長	どちらとも	新型コロナウイルス感染症等への対応が課題。
渋川地区医師会 有床診療所代表	未回答	-
渋川北群馬歯科医師会長	どちらとも	歯科においてはコメントできない。
渋川地区薬剤師会長	どちらとも-	
群馬県看護協会渋川地区支部長	現状まま	医療圏の区分けはデータ活用しか使途がないためどちらでもよい。
渋川広域消防本部消防長	現状まま-	
群馬県介護支援専門員協会渋川圏域支部役員	未回答	-
群馬県保険者協議会（全国健康保険協会群馬支部）	どちらとも	社会条件の分析、今後の変化も見込んだ検討が必要。県が議論をリードすべき。

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

<伊勢崎>

団体・役職	回答記号	回答（要旨）
伊勢崎市長	現状まま	-
伊勢崎佐波医師会長	見直検討	県が見直し案を示すべき
玉村町長	現状まま	-
伊勢崎市消防長	どちらとも	-
伊勢崎佐波医師会副会長	見直検討	小児医療では10医療圏では完結できない。
伊勢崎歯科医師会長	どちらとも	歯科においては二次保健医療官に関する問題に直面した経験がないため。
伊勢崎市薬剤師会長	現状まま	-
伊勢崎市民病院長	見直検討	県全体では見直しの必要がある二次医療圏もあるのでは。県全体で検討すべき。
美原記念病院長	どちらとも	診療科や疾患別についても議論が必要。
群馬県看護協会伊勢崎地区 支部長	どちらとも	-
サンデン健康保険組合 常務理事	現状まま	国が示す二次医療圏の見直しに関する基準（トリプル20）に該当していない。
伊勢崎市健康推進員協議会副会長	どちらとも	-
伊勢崎市民生委員・児童委員代表	どちらとも	医療関係者にもわかるような説明を求む。
玉村町保健推進協議会長	現状まま	-
鶴谷病院（参考）	どちらとも	救急搬送の搬送時間や断られた件数のデータも示すべき。

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

＜高崎・安中＞

団体・役職	回答記録	回答（要旨）
高崎市長	未回答	-
安中市長	現状まま	-
高崎市医師会長	見直検討	二次医療圏を広域に見直すのであれば、当該圏域の機能増強が必要。
安中市医師会長	未回答	-
群馬県医師会長	見直検討	-
藤岡市医師会副会長	現状まま	安中の公立病院の統廃合もできれば地元の意見を反映していきたい
高崎市歯科医師会長	未回答	-
安中碓氷歯科医師会長	未回答	-
高崎市薬剤師会長	未回答	-
安中市薬剤師会長	未回答	-
群馬県看護協会代表	未回答	-
独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	未回答	-
公立碓氷病院長	現状まま	-
群馬県病院協会代表	見直検討	現状では医療機能が集中している前橋県域に患者を送りがち。
群馬県病院協会代表	未回答	-
群馬県有床診療所協議会代表	現状まま	各医療圏の中核病院の充実が必要。
高崎市等広域消防局消防長	どちらとも	県央と比較すると高崎総合医療センターの勤務医の数が少ない。
群馬県保険者協議会代表	どちらとも	社会条件の分析、今後の変化も見込んだ検討が必要。県が議論をリードすべき。

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

<藤岡>

団体・役職	回答記号	回答（要旨）
藤岡市長	未回答	-
上野村長	現状まま	-
神流町長	現状まま	-
藤尾多野医師会長	現状まま	-
藤岡多野医師会副会長	見直検討	地域住民の利便性や要望を含めて考える必要がある。
藤岡多野医師会 救急担当理事	未回答	-
藤岡多野医師会 へき地担当理事	未回答	-
藤尾多野歯科医師会長	現状まま	公立藤岡総合病院を中心に地域医療が機能している。
藤岡薬剤師会長	未回答	-
公立藤岡総合病院長	未回答	-
群馬県看護協会藤岡地区支部長	現状まま	-
藤岡市連合婦人会長	未回答	-
多野藤岡広域市町村圏振興整備組合消防長	未回答	-
群馬県病院協会理事・医療法人社団三思会くすの	未回答	-
藤岡市国民健康保険 鬼石病院長	未回答	-
医療法人育生会 篠塚病院長	未回答	-
医療法人和光会 光病院長	どちらとも	-
群馬県保険者協議会代表	どちらとも	患者の受療動向だけでなく、社会的条件の今後の変化も見込んだ検討が必要。

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

<富岡>

団体・役職	回答記号	回答（要旨）
富岡市長	現状まま	メリットがないと広域化する理由にならない。現状では特段の支障は無い。
下仁田町長	現状まま	-
南牧村長	現状まま	必要最低限の変更
甘楽町長	現状まま	-
富岡市甘楽郡医師会長（兼西毛病院代表（医療法	現状まま	現状のままで特段の支障は無いが、
富岡市甘楽郡医師会副会長	どちらとも	地域病院の専門性が向上すれば、患者の流出が解消される可能性がある。
富岡甘楽歯科医師会長	現状まま	-
富岡甘楽薬剤師会長	どちらとも	人口減少を防ぐという意味合いも重要。
公立富岡総合病院代表（富岡地域医療企業団 企	見直検討	産科医不足解消が急務。分娩可能な医療機関の集約や公立病院の機能分化が必要。
下仁田厚生病院長	現状まま	-
公立七日市病院	見直検討	より広域での医療圏設定が望まれる。
富岡甘楽地域診療所代表	現状まま	-
富岡甘楽広域消防本部 消防長	どちらとも	圏域内での救急搬送が完結できるような体制整備を望む。
群馬県看護協会富岡地区支部長	見直検討	医療機関へのアクセスも考慮する必要がある。医師確保も急務。
保険者代表（全国健康保険協会群馬支部）	どちらとも	社会条件の分析、今後の変化も見込んだ検討が必要。県が議論をリードすべき。

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

<吾妻>

団体・役職	回答記号	回答（要旨）
中之条町長	現状まま	-
長野原町長	どちらとも	吾妻郡の本来の医療を考えていくことも必要。
嬭恋村長	未回答	-
草津町長	未回答	-
高山村長	どちらとも	-
東吾妻町長	未回答	-
吾妻郡町村議会議長会長	未回答	-
吾妻郡医師会長	現状まま	圏域拡大により住民サービスの低下につながりかねない。
吾妻郡医師会副会長	未回答	-
吾妻郡医師会副会長	現状まま	循環器系疾患に関する救急医療は不足しているが、全体としては現状維持。
吾妻郡医師会救急担当理事	未回答	-
原町赤十字病院長	現状まま	医師会と公立公的病院と連携できている。吾妻としてまとまっている方がよい。
田島病院	現状まま	現状維持が妥当。渋川との合併は吾妻全体の医療レベル低下を招く。
群馬リハビリテーション病院長	見直検討	人口減少著しく、圏域を超えた救急搬送も多い。医療資源（特に産科・小児科）も不足
吾妻さくら病院長	未回答	-
長生病院長	未回答	-
草津こまくさ病院長	未回答	-
西吾妻福祉病院管理者	どちらとも	流出もあるが、観光客による流入もあるため、現在の医療提供体制を維持すべき。一方、労働人口の減少で医療提供体制が維持できなくなると、圏域の拡大が必要。
中之条病院長	どちらとも	診療科によるばらつきがあり、一元的に決められないのでは。
櫻井医院長	未回答	-
吾妻郡歯科医師会長	未回答	-
吾妻郡薬剤師会長	未回答	-
群馬県看護協会中之条地区支部長	どちらとも	吾妻地域メディカルコントロール協議会でも議論してはどうか。
吾妻広域消防本部消防長	現状まま	-
ベイシアグループ健康保険組合常務理事	未回答	-

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

<沼田>

団体・役職	回答記号	回答（要旨）
沼田市長	現状まま	-
片品村長	現状まま	周産期医療が不足、二、五次でなく、二次医療圏単位での整備をお願いしたい。
川場村長	現状まま	更なる医療機関の充実をお願いしたい。
昭和村長	現状まま	二次医療圏で対応できない医療があり、対応を望む。
みなかみ町長	現状まま	現状にて概ね医療を賄っている。小児科・産科・精神科は体制整備が必要。
沼田利根医師会長	現状まま	二、五次保健医療圏を活用しつつ、現在の二次保健医療圏を守ってもらいたい
沼田利根医師会副会長	現状まま	医療圏の統合ではなく、医師（産科・小児科）の配置見直しの方が効率的。
沼田利根医師会副会長	現状まま	医療費削減のための圏域統合は疑問。データによると、当圏域の完結率は高い。
沼田利根歯科医師会長	現状まま	-
沼田利根薬剤師会長	現状まま	-
沼田病院 院長	現状まま	積極的に見直す必要性に乏しい
利根中央病院 院長	現状まま	-
沼田脳神経外科循環器科病院 院長	現状まま	見直しの基準は画一的でなく、地域の実情を踏まえて設定すべき
（医）大誠会 理事長	見直検討	圏域内での医療完結を目指すべき。流出入については疾病別の詳細を考慮すべき。
全国健康保険協会群馬支部 業務部長	どちらとも	見直しには社会的条件やアクセス時間を考慮し、今後の変化も見込んで検討すべき。見直さないのであれば、自足率が低い分野の体制強化が必要。
利根沼田広域消防本部 消防長	現状まま	-
県看護協会沼田地区支部長	現状まま	現時点では特段の支障はないのでは。
利根沼田広域市町村圏振興整備組合事務局長	現状まま	-

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

<桐生>

団体・役職	回答記録	回答（要旨）
桐生市長	現状まま	医師確保に配慮願う
みどり市長	未回答	-
桐生市医師会長	現状まま	支障がないわけではないが、桐生医療圏は比較的流出入が少なく現状で良い
桐生市医師会副会長	未回答	-
桐生市歯科医師会長	未回答	-
桐生薬剤師会長	未回答	-
桐生厚生総合病院長	見直検討	圏域ごとの人口差が激しく見直しが必要。二. 五次保健医療圏は実効性が乏しい。
群馬県病院協会副会長	未回答	-
桐生市消防本部消防長	どちらとも	-
群馬県看護協会桐生地区支部長	どちらとも	産科が減少、圏域外への入院患者像は課題

各圏域で実施したアンケート結果（詳細）

<太田・館林>

団体・役職	回答記載	回答（要旨）
太田市市長	未回答	-
館林市長	どちらとも	太田・館林それぞれのデータ分析に基づいて必要性を判断したい。
邑楽郡町村会長（邑楽町長）	現状まま	-
太田市議会議長	未回答	-
館林市議会議長	どちらとも	太田・館林それぞれのデータ分析に基づいて必要性を判断したい。
邑楽郡町村議会議長会長（千代田町議会議長）	どちらとも	公立館林厚生病院の医師の充足をお願いしたい。
太田市医師会長	未回答	-
太田市医師会顧問・群馬県病院協会理事	未回答	-
館林市邑楽郡医師会長	未回答	-
館林市邑楽郡医師会副会長	未回答	-
太田新田歯科医師会長	未回答	-
館林邑楽歯科医師会長	未回答	-
太田市薬剤師会長	未回答	-
館林邑楽薬剤師会長	未回答	-
群馬県病院協会代表（おうら病院）	未回答	-
太田市消防本部消防長	未回答	-
館林地区消防組合消防長	見直検討	広域化は必要だが、メリット・デメリットを明確にしないと議論に発展しない。
太田地域病院代表（太田記念病院）	未回答	-
館林地域病院代表（公立館林厚生病院）	どちらとも	5疾病・6事業をどの医療機関が担っていくかの議論が先にあるべき。 当圏域は、周産期や高度救命医療を効率的に行う観点から、現状維持が最適。
精神科病院代表（三枚橋病院）	どちらとも	精神医療は全県一区となっている。
看護協会代表（太田記念病院）	未回答	-
保険者協議会代表（SUBARU健康保険組合群馬支部）	見直検討	産科・小児科の維持や医師の働き方改革への対応について、専門部会での議論が必要。

主な疾病における 入院患者流出の状況

出典：令和 3 年 群馬県患者調査

- ◆ 県内の病院及び有床診療所を利用する入院患者について、その傷病の種類、受療動向等の実態を把握
- ◆ 本稿では、県内二次保健医療圏別の主な疾病（がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病、参考として小児医療）に係る入院患者の自足率、流出率を分析している（一般病床・療養病床のみ）

【用語解説】

自足率・・・圏域内に居住する患者のうち、同圏域内の医療機関にかかった割合
(自足率 = 100 - 流出率)

流出率・・・圏域内に居住する患者のうち、他圏域の医療機関にかかった割合。

がん

「令和3年 群馬県患者調査」の調査結果のうち、
以下のICD-10中分類コードに該当する疾病の回答を集計した

- 胃の悪性新生物
- 結腸の悪性新生物
- 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物
- 肝及び肝内胆管の悪性新生物
- 気管、気管支及び肺の悪性新生物
- 乳房の悪性新生物
- 子宮の悪性新生物
- 悪性リンパ腫
- 白血病
- その他の悪性新生物

【がん】入院患者の流出状況（R3）

<がん>

n = 1,651

受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	16.9%	83.1%	6.9%	3.2%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	1.2%
渋川	31.9%	22.7%	68.1%	0.0%	9.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
伊勢崎	41.3%	25.8%	1.3%	58.7%	5.8%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	6.5%
高崎・安中	35.9%	24.7%	2.4%	0.3%	64.1%	4.4%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
藤岡	36.4%	20.0%	0.0%	0.0%	14.5%	63.6%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
富岡	51.0%	11.8%	5.9%	0.0%	25.5%	5.9%	49.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
吾妻	63.0%	8.7%	50.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	37.0%	2.2%	0.0%	0.0%
沼田	47.2%	12.4%	34.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	52.8%	0.0%	0.0%
桐生	32.2%	14.9%	1.1%	2.9%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	67.8%	12.6%
太田・館林	14.0%	7.6%	0.8%	3.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	86.0%

<全疾病>

n = 14,384

受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	23.9%	76.1%	5.0%	4.7%	10.9%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	1.7%	0.2%
渋川	42.0%	23.3%	58.0%	1.0%	11.9%	0.0%	0.0%	2.7%	2.8%	0.3%	0.0%
伊勢崎	28.1%	13.5%	2.0%	71.9%	5.0%	0.9%	0.0%	0.2%	0.1%	3.0%	3.4%
高崎・安中	22.8%	10.8%	2.2%	1.6%	77.2%	2.8%	3.7%	0.9%	0.4%	0.2%	0.1%
藤岡	31.8%	8.0%	2.4%	1.4%	16.7%	68.2%	2.4%	0.4%	0.0%	0.4%	0.2%
富岡	30.1%	5.4%	2.4%	0.7%	17.6%	2.8%	69.9%	0.2%	0.0%	0.7%	0.2%
吾妻	35.5%	9.5%	14.1%	0.2%	3.6%	0.0%	0.0%	64.5%	7.9%	0.0%	0.2%
沼田	19.7%	6.6%	7.2%	0.4%	1.7%	0.0%	0.0%	3.1%	80.3%	0.6%	0.1%
桐生	19.6%	7.6%	1.0%	4.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	80.4%	5.9%
太田・館林	18.6%	3.8%	1.1%	6.8%	0.9%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	5.6%	81.4%

(出典) 県患者調査 (H27及びR3)

※一般病床・療養病床の入院患者を対象（精神・感染症・結核病床を除外）

■ : 自足率（患者住所と受療地の二次保健医療圏が一致するもの）

がん のポイント

- 流出率が高い「吾妻」「沼田」は、がん診療連携拠点病院がない圏域
- 「脳卒中」「心血管疾患」と比べると、全体的に流出率が高めであり、入院患者の受療動向は圏域を超えている傾向が強い
- <中毛>「前橋」はどの圏域からも多くの患者を受け入れている。特に隣接する「渋川」「伊勢崎」「高崎・安中」からの受入が多い。
- <西毛>「富岡」も流出率が高めだが、その半分が「高崎・安中」への流出である。「藤岡」→「高崎・安中」の流出も約15%ほどあるが、「前橋」への流出の方が大きい
- <北毛>「吾妻」「沼田」地域から「渋川」への流出が非常に大きい
- <東毛>「桐生」⇔「太田・館林」間の患者の動きはほとんどない。

脳卒中

「令和3年 群馬県患者調査」の調査結果のうち、
以下のICD-10中分類コードに該当する疾病の回答を集計した

- くも膜下出血
- 脳内出血
- 脳梗塞
- 脳動脈硬化（症）
- その他の脳血管疾患

【脳卒中】入院患者の流出状況（R3）

<脳卒中>

n = 1,808

受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	33.0%	67.0%	1.5%	9.0%	18.4%	0.0%	0.0%	2.2%	0.7%	0.7%	0.4%
渋川	68.4%	30.6%	31.6%	1.0%	21.4%	0.0%	0.0%	8.2%	7.1%	0.0%	0.0%
伊勢崎	21.6%	5.3%	0.0%	78.4%	6.4%	1.8%	0.0%	0.6%	0.0%	4.1%	3.5%
高崎・安中	15.9%	4.2%	0.5%	1.7%	84.1%	2.2%	2.5%	4.4%	0.5%	0.0%	0.0%
藤岡	24.5%	1.9%	0.0%	0.0%	17.0%	75.5%	1.9%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
富岡	37.5%	0.0%	0.0%	2.1%	33.3%	2.1%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
吾妻	27.4%	2.7%	8.2%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	72.6%	13.7%	0.0%	0.0%
沼田	27.3%	4.0%	2.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.2%	72.7%	1.0%	0.0%
桐生	18.5%	0.6%	0.0%	8.7%	0.6%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	81.5%	7.5%
太田・館林	11.2%	0.4%	0.0%	5.4%	0.8%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	3.1%	88.8%

<全疾病>

n = 14,384

受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	23.9%	76.1%	5.0%	4.7%	10.9%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	1.7%	0.2%
渋川	42.0%	23.3%	58.0%	1.0%	11.9%	0.0%	0.0%	2.7%	2.8%	0.3%	0.0%
伊勢崎	28.1%	13.5%	2.0%	71.9%	5.0%	0.9%	0.0%	0.2%	0.1%	3.0%	3.4%
高崎・安中	22.8%	10.8%	2.2%	1.6%	77.2%	2.8%	3.7%	0.9%	0.4%	0.2%	0.1%
藤岡	31.8%	8.0%	2.4%	1.4%	16.7%	68.2%	2.4%	0.4%	0.0%	0.4%	0.2%
富岡	30.1%	5.4%	2.4%	0.7%	17.6%	2.8%	69.9%	0.2%	0.0%	0.7%	0.2%
吾妻	35.5%	9.5%	14.1%	0.2%	3.6%	0.0%	0.0%	64.5%	7.9%	0.0%	0.2%
沼田	19.7%	6.6%	7.2%	0.4%	1.7%	0.0%	0.0%	3.1%	80.3%	0.6%	0.1%
桐生	19.6%	7.6%	1.0%	4.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	80.4%	5.9%
太田・館林	18.6%	3.8%	1.1%	6.8%	0.9%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	5.6%	81.4%

(出典) 県患者調査 (H27及びR3) ※一般病床・療養病床の入院患者を対象 (精神・感染症・結核病床を除外)

■ : 自足率 (患者住所と受療地の二次保健医療圏が一致するもの)

脳卒中 のポイント

- 「伊勢崎」「高崎・安中」「桐生」「太田・館林」の自足率が高い。「富岡」の流出率がやや大きく、「渋川」はほとんどが流出している。
- <中毛> 「前橋」から「高崎・安中」へ一定数が流出している。
- <西毛> 「高崎・安中」の自足率が高い一方で、「藤岡」「富岡」から「高崎・安中」への流出が非常に大きい
- <北毛> 「渋川」から「前橋」「高崎・安中」への流出が大きい。がんと異なり、「吾妻」「沼田」の結びつきが強く、当該圏域から「渋川」への流出がほとんどない。
- <東毛> 「桐生」⇔「太田・館林」間の患者の動きはほとんどない。

心血管疾患

「令和3年 群馬県患者調査」の調査結果のうち、
以下のICD-10中分類コードに該当する疾病の回答を集計した

- 高血圧性疾患
- 虚血性心疾患
- その他の心疾患
- 動脈硬化（症）
- 低血圧（症）
- その他の循環器系の疾患

【心血管疾患】入院患者の流出状況 (R3)

<心血管疾患>

n = 1, 230

受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	18.1%	81.9%	5.2%	1.6%	9.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.0%	0.0%
渋川	39.4%	19.7%	60.6%	0.0%	14.1%	0.0%	0.0%	1.4%	4.2%	0.0%	0.0%
伊勢崎	26.1%	16.7%	0.0%	73.9%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	2.2%
高崎・安中	22.4%	13.2%	0.9%	1.3%	77.6%	2.6%	3.9%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
藤岡	36.5%	9.6%	3.8%	1.9%	17.3%	63.5%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
富岡	27.0%	8.1%	0.0%	2.7%	13.5%	2.7%	73.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
吾妻	52.0%	16.0%	26.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	48.0%	10.0%	0.0%	0.0%
沼田	13.1%	8.3%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	86.9%	0.0%	0.0%
桐生	30.3%	18.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	69.7%	9.8%
太田・館林	16.1%	7.5%	0.5%	3.2%	0.5%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	3.8%	83.9%

<全疾病>

n = 14, 384

受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	23.9%	76.1%	5.0%	4.7%	10.9%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	1.7%	0.2%
渋川	42.0%	23.3%	58.0%	1.0%	11.9%	0.0%	0.0%	2.7%	2.8%	0.3%	0.0%
伊勢崎	28.1%	13.5%	2.0%	71.9%	5.0%	0.9%	0.0%	0.2%	0.1%	3.0%	3.4%
高崎・安中	22.8%	10.8%	2.2%	1.6%	77.2%	2.8%	3.7%	0.9%	0.4%	0.2%	0.1%
藤岡	31.8%	8.0%	2.4%	1.4%	16.7%	68.2%	2.4%	0.4%	0.0%	0.4%	0.2%
富岡	30.1%	5.4%	2.4%	0.7%	17.6%	2.8%	69.9%	0.2%	0.0%	0.7%	0.2%
吾妻	35.5%	9.5%	14.1%	0.2%	3.6%	0.0%	0.0%	64.5%	7.9%	0.0%	0.2%
沼田	19.7%	6.6%	7.2%	0.4%	1.7%	0.0%	0.0%	3.1%	80.3%	0.6%	0.1%
桐生	19.6%	7.6%	1.0%	4.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	80.4%	5.9%
太田・館林	18.6%	3.8%	1.1%	6.8%	0.9%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	5.6%	81.4%

(出典) 県患者調査 (H27及びR3) ※一般病床・療養病床の入院患者を対象 (精神・感染症・結核病床を除外)

■ : 自足率 (患者住所と受療地の二次保健医療圏が一致するもの)

心筋梗塞等の心血管疾患 のポイント

- 「渋川」「藤岡」「吾妻」「桐生」の流出率が高い。「前橋」「高崎・安中」「沼田」「太田・館林」の流出率が低い。
- <中毛> 脳卒中と異なり、「伊勢崎」→「前橋」への流出が一定程度認められる
- <西毛> 「藤岡」「富岡」からの流出の約半数が「高崎・安中」である
- <北毛> 「渋川」からの流出は「前橋」「高崎・安中」が多い。「吾妻」は心血管では「前橋」「渋川」への流出が大きい（脳卒中とは異なる傾向）。
- <東毛> 「桐生」⇔「太田・館林」間の患者の動きはほとんどない。

糖尿病

「令和3年 群馬県患者調査」の調査結果のうち、
以下のICD-10中分類コードに該当する疾病の回答を集計した

- 糖尿病

【糖尿病】入院患者の流出状況（R3）

<糖尿病>

n = 159

受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	4.5%	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
渋川	62.5%	37.5%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
伊勢崎	21.4%	14.3%	0.0%	78.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
高崎・安中	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	91.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
藤岡	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
富岡	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
吾妻	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
沼田	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
桐生	13.6%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	86.4%	4.5%
太田・館林	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

<全疾病>

n = 14,384

受療地 住所地	流出率	前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林
前橋	23.9%	76.1%	5.0%	4.7%	10.9%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	1.7%	0.2%
渋川	42.0%	23.3%	58.0%	1.0%	11.9%	0.0%	0.0%	2.7%	2.8%	0.3%	0.0%
伊勢崎	28.1%	13.5%	2.0%	71.9%	5.0%	0.9%	0.0%	0.2%	0.1%	3.0%	3.4%
高崎・安中	22.8%	10.8%	2.2%	1.6%	77.2%	2.8%	3.7%	0.9%	0.4%	0.2%	0.1%
藤岡	31.8%	8.0%	2.4%	1.4%	16.7%	68.2%	2.4%	0.4%	0.0%	0.4%	0.2%
富岡	30.1%	5.4%	2.4%	0.7%	17.6%	2.8%	69.9%	0.2%	0.0%	0.7%	0.2%
吾妻	35.5%	9.5%	14.1%	0.2%	3.6%	0.0%	0.0%	64.5%	7.9%	0.0%	0.2%
沼田	19.7%	6.6%	7.2%	0.4%	1.7%	0.0%	0.0%	3.1%	80.3%	0.6%	0.1%
桐生	19.6%	7.6%	1.0%	4.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	80.4%	5.9%
太田・館林	18.6%	3.8%	1.1%	6.8%	0.9%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	5.6%	81.4%

(出典) 県患者調査 (H27及びR3) ※一般病床・療養病床の入院患者を対象 (精神・感染症・結核病床を除外)

■ : 自足率 (患者住所と受療地の二次保健医療圏が一致するもの)

糖尿病 のポイント

- 「渋川」を除き、各圏域の自足率が高い。
- ただし、レコードの数が少ないため、評価困難（参考値）

小児医療

「令和3年 群馬県患者調査」の調査結果のうち、
入院患者の年齢が15歳未満の回答を集計した

【小児医療】入院患者の流出状況（R3）

<小児医療>

n = 359

受療地 住所地	流出率	前 橋	渋 川	伊勢崎	高崎・ 安中	藤 岡	富 岡	吾 妻	沼 田	桐 生	太田・ 館林
前 橋	39.3%	60.7%	31.1%	0.0%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
渋 川	60.0%	40.0%	40.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
伊勢崎	71.7%	19.6%	28.3%	28.3%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.0%	2.2%
高崎・安中	57.3%	21.3%	28.0%	1.3%	42.7%	2.7%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
藤 岡	76.9%	15.4%	38.5%	0.0%	23.1%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
富 岡	80.0%	30.0%	30.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
吾 妻	83.3%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%
沼 田	54.5%	27.3%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	45.5%	0.0%	0.0%
桐 生	25.8%	6.5%	16.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	74.2%	0.0%
太田・館林	86.8%	7.9%	47.4%	2.6%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	23.7%	13.2%

<全疾病>

n = 14,384

受療地 住所地	流出率	前 橋	渋 川	伊勢崎	高崎・ 安中	藤 岡	富 岡	吾 妻	沼 田	桐 生	太田・ 館林
前 橋	23.9%	76.1%	5.0%	4.7%	10.9%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	1.7%	0.2%
渋 川	42.0%	23.3%	58.0%	1.0%	11.9%	0.0%	0.0%	2.7%	2.8%	0.3%	0.0%
伊勢崎	28.1%	13.5%	2.0%	71.9%	5.0%	0.9%	0.0%	0.2%	0.1%	3.0%	3.4%
高崎・安中	22.8%	10.8%	2.2%	1.6%	77.2%	2.8%	3.7%	0.9%	0.4%	0.2%	0.1%
藤 岡	31.8%	8.0%	2.4%	1.4%	16.7%	68.2%	2.4%	0.4%	0.0%	0.4%	0.2%
富 岡	30.1%	5.4%	2.4%	0.7%	17.6%	2.8%	69.9%	0.2%	0.0%	0.7%	0.2%
吾 妻	35.5%	9.5%	14.1%	0.2%	3.6%	0.0%	0.0%	64.5%	7.9%	0.0%	0.2%
沼 田	19.7%	6.6%	7.2%	0.4%	1.7%	0.0%	0.0%	3.1%	80.3%	0.6%	0.1%
桐 生	19.6%	7.6%	1.0%	4.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	80.4%	5.9%
太田・館林	18.6%	3.8%	1.1%	6.8%	0.9%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	5.6%	81.4%

(出典) 県患者調査 (H27及びR3)

※一般病床・療養病床の入院患者を対象 (精神・感染症・結核病床を除外)

■ : 自足率 (患者住所と受療地の二次保健医療圏が一致するもの)

小児医療 のポイント

- 糖尿病同様に、そもそもレコードの数が少ないため評価困難
- 少ないレコードながら、集計結果を見ると、この分野では入院患者の受療動向と二次保健医療圏との関係性が非常に低い（確認しづらい）

【まとめ】入院患者の流出状況（R3）

住所地	流出率					
	全疾病	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	小児医療
前橋	23.9%	16.9%	33.0%	18.1%	4.5%	39.3%
渋川	42.0%	31.9%	68.4%	39.4%	62.5%	60.0%
伊勢崎	28.1%	41.3%	21.6%	26.1%	21.4%	71.7%
高崎・安中	22.8%	35.9%	15.9%	22.4%	8.3%	57.3%
藤岡	31.8%	36.4%	24.5%	36.5%	0.0%	76.9%
富岡	30.1%	51.0%	37.5%	27.0%	16.7%	80.0%
吾妻	35.5%	63.0%	27.4%	52.0%	25.0%	83.3%
沼田	19.7%	47.2%	27.3%	13.1%	0.0%	54.5%
桐生	19.6%	32.2%	18.5%	30.3%	13.6%	25.8%
太田・館林	18.6%	14.0%	11.2%	16.1%	0.0%	86.8%
	n=14,384	n=1,651	n=1,808	n=1,230	n=159	n=359

（出典）県患者調査（R3） ※一般病床・療養病床の入院患者を対象（精神・感染症・結核病床を除外）

疾病分類等ごとの 救急搬送の状況（令和3年）

出典：群馬県統合型医療情報システム

- ◆ 救急医療や災害時の救護活動などに必要な情報を24時間体制で総合的に収集し、提供するもの
- ◆ 本稿では、同システムに入力された情報から、各疾病分類等における救急搬送数について、消防機関別の搬送先（二次保健医療圏別）を分析している。

疾病分類・・・搬送時に救急隊が入力する情報。同システムが統計把握を目的としたものではないため、悉皆性は担保できない点に留意。

脑疾患

【脳疾患】救急搬送の状況（R3）

【搬送数】

消防機関	流出数	医療機関所在地（医療圏）											
		前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県外	総計
前橋市消防局	180	639	8	114	53	1			1	1	1	1	819
渋川広域消防本部	197	140	77		16			1	40				274
伊勢崎市消防本部	72	29	1	468	32	3				3	3	1	540
高崎市等広域消防局	119	80	4	1	953	24	9					1	1,072
多野藤岡広域消防本部	67	6		2	45	220	14						287
富岡甘楽広域消防本部	119	6	1		48	64	35						154
吾妻広域消防本部	176	8	2		2			56	141	1	1	21	232
利根沼田広域消防本部	10	2	8						351				361
桐生市消防本部	119	12		48						346	49	10	465
太田市消防本部、 館林地区消防組合消防本部	163	2	2	72	0	0	0	0	0	6	890	81	1,053
総計	1,222	924	103	705	1,149	312	58	57	533	357	944	115	5,257

【割合】

消防機関	流出率	医療機関所在地（医療圏）											
		前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県外	総計
前橋市消防局	22.0%	78.0%	1.0%	13.9%	6.5%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	100%
渋川広域消防本部	71.9%	51.1%	28.1%	0.0%	5.8%	0.0%	0.0%	0.4%	14.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
伊勢崎市消防本部	13.3%	5.4%	0.2%	86.7%	5.9%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.6%	0.2%	100%
高崎市等広域消防局	11.1%	7.5%	0.4%	0.1%	88.9%	2.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	100%
多野藤岡広域消防本部	23.3%	2.1%	0.0%	0.7%	15.7%	76.7%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
富岡甘楽広域消防本部	77.3%	3.9%	0.6%	0.0%	31.2%	41.6%	22.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
吾妻広域消防本部	75.9%	3.4%	0.9%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	24.1%	60.8%	0.4%	0.4%	9.1%	100%
利根沼田広域消防本部	2.8%	0.6%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	97.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
桐生市消防本部	25.6%	2.6%	0.0%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	74.4%	10.5%	2.2%	100%
太田市消防本部、 館林地区消防組合消防本部	15.5%	0.2%	0.2%	6.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	84.5%	7.7%	100%
総計	23.2%	17.6%	2.0%	13.4%	21.9%	5.9%	1.1%	1.1%	10.1%	6.8%	18.0%	2.2%	100%

脳疾患 の救急搬送のポイント

- 「渋川」「富岡」「吾妻」の流出率が高く、「高崎・安中」「沼田」「伊勢崎」「太田・館林」が低い。特に「沼田」は流出率が傑出して低い。
- <中毛> 「前橋」→「伊勢崎」に約15%の流出があるが、「伊勢崎」→「前橋」はほとんどない。
- <西毛> 「富岡」からの流出はほとんどが「高崎・安中」「藤岡」に向けられている。「藤岡」から「高崎・安中」への流出も15%超
- <北毛> 「渋川」からの救急搬送先の半数以上が「前橋」で、「沼田」も15%弱。「吾妻」からも6割が「沼田」に搬送されている。
- <東毛> 「桐生」から「伊勢崎」「太田・館林」へそれぞれ1割超が流出している。「太田・館林」からの流出の約半数は「県外」である

心疾患

【心疾患】救急搬送の状況（R3）

【搬送数】

消防機関	流出数	医療機関所在地（医療圏）											総計
		前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県外	
前橋市消防局	71	671	24	6	38	1				1		1	742
渋川広域消防本部	45	28	266		11				6				311
伊勢崎市消防本部	139	88		315	21	5				13	11	1	454
高崎市等広域消防局	152	79	4	1	849	35	32				1		1,001
多野藤岡広域消防本部	80	17		6	27	207	28					2	287
富岡甘楽広域消防本部	20	12	1	1	5	1	135						155
吾妻広域消防本部	123	21	38		4			126	49			11	249
利根沼田広域消防本部	3	1	1		1				249				252
桐生市消防本部	207	111	2	4						389	60	30	596
太田市消防本部、 館林地区消防組合消防本部	201	31	2	41	1	0	0	0	0	18	895	108	1,096
総計	1,041	1,059	338	374	957	249	195	126	304	421	967	153	5,143

【割合】

消防機関	流出率	医療機関所在地（医療圏）											総計
		前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県外	
前橋市消防局	9.6%	90.4%	3.2%	0.8%	5.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	100%
渋川広域消防本部	14.5%	9.0%	85.5%	0.0%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
伊勢崎市消防本部	30.6%	19.4%	0.0%	69.4%	4.6%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	2.4%	0.2%	100%
高崎市等広域消防局	15.2%	7.9%	0.4%	0.1%	84.8%	3.5%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	100%
多野藤岡広域消防本部	27.9%	5.9%	0.0%	2.1%	9.4%	72.1%	9.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	100%
富岡甘楽広域消防本部	12.9%	7.7%	0.6%	0.6%	3.2%	0.6%	87.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
吾妻広域消防本部	49.4%	8.4%	15.3%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	50.6%	19.7%	0.0%	0.0%	4.4%	100%
利根沼田広域消防本部	1.2%	0.4%	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	98.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
桐生市消防本部	34.7%	18.6%	0.3%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	65.3%	10.1%	5.0%	100%
太田市消防本部、 館林地区消防組合消防本部	18.3%	2.8%	0.2%	3.7%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	81.7%	9.9%	100%
総計	20.2%	20.6%	6.6%	7.3%	18.6%	4.8%	3.8%	2.4%	5.9%	8.2%	18.8%	3.0%	100%

心疾患 の救急搬送のポイント

- 脳疾患と比較すると、全体の流出率は減。「吾妻」の流出率が高く、「伊勢崎」「桐生」もやや高い。「渋川」「高崎・安中」「富岡」「沼田」「太田・館林」の流出率は低く、特に「沼田」は傑出している
- <中毛> 「伊勢崎」→「前橋」に2割弱の流出があり、脳疾患とは異なる傾向である
- <西毛> 「藤岡」からの流出先はほとんどが「高崎・安中」「富岡」であり、それぞれ1割弱。
- <北毛> 「吾妻」から「沼田」へ2割弱の流出。脳疾患ではほとんど見られなかったが、「渋川」にも約15%の流出がある。
- <東毛> 「桐生」→「太田・館林」へ約1割の流出は脳と同じ傾向だが、「前橋」にも2割弱の流出あり。「太田・館林」は脳疾患同様に「県外」への流出が約1割

小児医療

【小児医療】救急搬送の状況（R3）

【搬送数】

消防機関	流出数	医療機関所在地（医療圏）											
		前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県外	総計
前橋市消防局	77	827	43	4	24	2			1	2		1	904
渋川広域消防本部	62	38	167		1				21			2	229
伊勢崎市消防本部	334	242	20	417	15	4				26	27		751
高崎市等広域消防局	242	79	45		736	69	48					1	978
多野藤岡広域消防本部	142	9	4		106	69	22					1	211
富岡甘楽広域消防本部	63	3	16		39	5	41						104
吾妻広域消防本部	54	6	26					67	10			12	121
利根沼田広域消防本部	67	5	62						91				158
桐生市消防本部	36	10	3	2					1	217	18	2	253
太田市消防本部、館林地区消防組合消防本部	107	5	19	8	0	0	0	0	0	7	663	68	770
総計	1,184	1,224	405	431	921	149	111	67	124	252	708	87	4,479

【割合】

消防機関	流出率	医療機関所在地（医療圏）											
		前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県外	総計
前橋市消防局	8.5%	91.5%	4.8%	0.4%	2.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%	100%
渋川広域消防本部	27.1%	16.6%	72.9%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	9.2%	0.0%	0.0%	0.9%	100%
伊勢崎市消防本部	44.5%	32.2%	2.7%	55.5%	2.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	3.6%	0.0%	100%
高崎市等広域消防局	24.7%	8.1%	4.6%	0.0%	75.3%	7.1%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	100%
多野藤岡広域消防本部	67.3%	4.3%	1.9%	0.0%	50.2%	32.7%	10.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	100%
富岡甘楽広域消防本部	60.6%	2.9%	15.4%	0.0%	37.5%	4.8%	39.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
吾妻広域消防本部	44.6%	5.0%	21.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	55.4%	8.3%	0.0%	0.0%	9.9%	100%
利根沼田広域消防本部	42.4%	3.2%	39.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	57.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
桐生市消防本部	14.2%	4.0%	1.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	85.8%	7.1%	0.8%	100%
太田市消防本部、館林地区消防組合消防本部	13.9%	0.6%	2.5%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	86.1%	8.8%	100.0%
総計	26.4%	27.3%	9.0%	9.6%	20.6%	3.3%	2.5%	1.5%	2.8%	5.6%	15.8%	1.9%	100%

小児医療 の救急搬送のポイント

- 「藤岡」「富岡」「吾妻」「沼田」「伊勢崎」の流出率が大きく、「前橋」「桐生」「太田・館林」の流出率が小さい。
- <中毛> 「伊勢崎」からの流出先のほとんどが「前橋」である。
- <西毛> 「藤岡」からの搬送の約半数が「高崎・安中」で、「富岡」にも1割以上の流出がある。「富岡」からの流出先の半数以上が「高崎・安中」だが、約15%程度は「渋川」にも流出している
- <北毛> 「渋川」から2割弱が「前橋」へ流出。「吾妻」からの流出先の約半分が、また「沼田」からの流出先のほとんどが、「渋川」である。
- <東毛> 「桐生」からの流出先の約半分が「太田・館林」だが、自足率も高い。「太田・館林」からの流出は、そのほとんどが「県外」である

【まとめ】救急搬送の状況（R3）

消防機関	流出率			
	全疾病	脳疾患	心疾患	小児医療
前橋市消防局	11.0%	22.0%	9.6%	8.5%
渋川広域消防本部	31.6%	71.9%	14.5%	27.1%
伊勢崎市消防本部	21.5%	13.3%	30.6%	44.5%
高崎市等広域消防局	17.2%	11.1%	15.2%	24.7%
多野藤岡広域消防本部	30.6%	23.3%	27.9%	67.3%
富岡甘楽広域消防本部	17.7%	77.3%	12.9%	60.6%
吾妻広域消防本部	31.9%	75.9%	49.4%	44.6%
利根沼田広域消防本部	6.9%	2.8%	1.2%	42.4%
桐生市消防本部	16.0%	25.6%	34.7%	14.2%
太田市消防本部、 館林地区消防組合消防本部	17.3%	15.5%	18.3%	13.9%
総計	18.0%	23.2%	20.2%	26.4%
	n = 78,898	5,257	5,143	4,479

まとめ

- <中毛> 脳疾患を除き、救急搬送においては「前橋」と「伊勢崎」との結びつきが強く認められる。
- <西毛> どの分野においても、「高崎・安中」を中心に、「藤岡」「富岡」の結びつきが強い。
- <北毛> 循環器系の疾患では「沼田」が中心的な役割。一方、小児医療においては「渋川」が中心である。
- <東毛> 「桐生」「太田・館林」それぞれの自足率が高く、また両圏域間の患者の出入りはほとんどない。